

(様式1)

授業科目 聴覚障害Ⅰ(小児)

科目コード番号

【担当教員名】 山口富一	対象学年	2	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【概要及び学習目標】

<概要>

聞こえとその障害についての基礎的なことを学ぶとともに、子供の発達と聞こえの問題や、聴覚活用の意義と条件について実践的なものを含めて学ぶ。
出席や授業中の態度と主体的な学習態度（ノートを取る・予習・復習）を重視する。

<学習目標>

- ・聞こえの仕組みとその障害についての基本的な知識を持つ
- ・聴覚障害と言語発達との関係を理解する。
- ・医学、オージオロジー、心理学、教育学との関係を理解する。
- ・聴覚障害の問題を的確に評価し、問題解決のために必要な基本的な知識を身につける。

回数	学習の主題	学習内容	学習方法
1-3	聞こえの仕組み 子供の発達と聞こえ 言語とその発達	人間における聴覚と聴覚の発達 聴覚系の階層性構造から乳児の聴覚発達 思考と言語の関係、言語的思考の発達	講義
4-6	聞こえの障害と発達 聴覚活用の意義	医学、オージオロジーの観点から / 心理学・教育的観点から 情緒との関わり、コミュニケーションと言語獲得への効果等	講義
7	聴覚活用の条件	聴覚的入力の保障、聴覚的イメージの獲得等	講義
8	中間まとめ	前時の続きと中間まとめ	講義と演習
9	主体的な聴覚活用	発達と学習、主体的学習、聴覚障害児の主体的聴覚学習	講義
10	聴覚活用の方法	聴能訓練から聴覚学習へ、聴覚学習の基本的な考え方、かかわり方等	講義
11-13	聴能発達課題と聴能発達 傾向	聴能の発達、発達課題、聴覚障害児の聴能発達傾向と配慮事項 乳幼児期の聴能発達傾向と配慮（高度、重度難聴） 幼児期後期、ⅠⅡ期	講義
14	聴覚活用の方法	補聴器の利用と管理	講義
15	同上とまとめ	聴覚学習の評価、聴能の評価・検査について	講義

【評価方法】

出席・レポート・定期試験等から総合的に評価する。

【履修上の留意点】

【使用図書】

教科書・参考書等	書名等	著者名	発行所	発行年・価格・その他
教科書	聴覚障害教育の手引：多様なコミュニケーション手段とそれを活用した指導	文部省編	海文堂出版	1995年、874円 ISBN：4-303-12650-0
参考書				
その他 (プリント等)	必要に応じてプリント配布			